

注意喚起情報

米づくり技術情報 No. 15

令和5年8月7日

台風第6号の影響でさらに高温が続く恐れ！ 水管理の徹底でこの猛暑をしのぎましょう！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

台風第6号は8月7日現在、九州の南側に位置しており、東北東の方向にゆっくり進んでいます（図1）。山形地方气象台によると、この影響で山形県内にも南風が吹き込んで猛暑が続く、庄内地域はフェーン現象も加わってさらに気温が高くなると見込まれます。

現在、「はえぬき」「雪若丸」は乳熟期、「つや姫」は出穂期～穂揃期となっています。品質低下を抑えるため、引き続き、きめ細かな水管理を徹底しましょう。

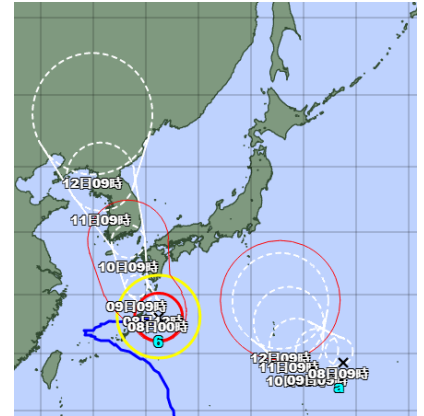


図1 台風第6号の予想経路図
(気象庁 8月7日12時現在)

◎「はえぬき」「雪若丸」は、最も胴割粒の発生量に影響する時期です！

出穂後6～10日頃の高温が最も胴割粒の発生に影響することから（図2）、8/1頃までに

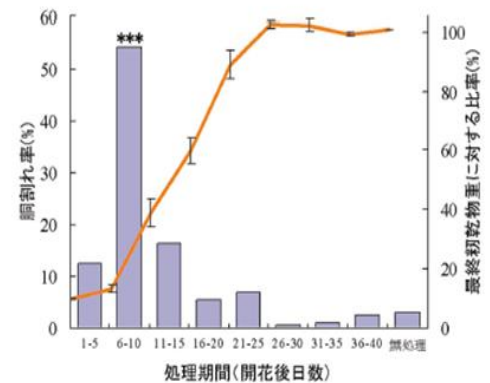


図2 高温処理した水稻玄米の胴割れ率と
穂粒乾物重の推移 (H16年 東北農研)

◎「つや姫」は出穂期～穂揃期！田んぼに水が入っているか確認しましょう！

受精・開花期は、特に水分を必要とするので、穂揃期までは湛水して管理します。水を張りっぱなしにすると根の機能が低下して、登熟に悪影響を及ぼすので、穂揃期以降は、間断かん水や飽水管理に移行します。このまま猛暑が続くと胴割粒発生リスクが急激に高まります。気温の低い朝夕の水の入替や飽水管理を行ってイネ群落内の水温、地温を下げる水管理を徹底しましょう。

◎ 病害虫防除の徹底 ～8月3日付で斑点米カメムシ類注意報発表～

8月前半の畦畔・農道等における斑点米カメムシ類の発生量が多い状況です。穂揃期と穂揃期7～10日後の2回の基本防除を徹底しましょう。また、葉いもちの発生が多かったほ場では、穂揃期散布の7日後にも防除を行い、穂いもち防除を徹底しましょう。

農作業事故と熱中症に十分注意してください！